

練馬区立 中里郷土の森緑地

令和 6 年度モニタリング調査結果



PURPOSE & METHOD

目的

- ▶ 地域の生物相の解明
- ▶ 区民のみなさまに自然の魅力を発信するための材料づくり

調査方法

踏査により発見された動物類^{※1}全般、維管束植物を記録する。動物類は個体数を記録。植物類は基本的に開花結実状況^{※2}がみられるものを記録した。
また、調査日以外に確認されたものがあれば追加で記録している。

1 中里郷土の森 園内調査

- ▶ 週に1回実施。^{※3}
- ▶ 植栽株を別途記録。
- ▶ 園内水辺の底生生物調査を年4回以上実施。

2 周辺緑地調査

- ▶ 月に1回実施。
- ▶ 中里郷土の森周辺の緑地を調査。

3 河川調査

- ▶ 年に1回実施。
- ▶ 白子川、石神井川の指定区域内を調査。
- ▶ 踏査に加え、タモ網による採取も実施。

※1：哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、昆虫類、クモ類を対象とし、その他特記すべきものは別途記載。河川調査では魚類、甲殻類、その他底生生物も記録。

※2：シダ植物は年度の初認時に記録。その他、記録が無いものや特記すべきもののうち、樹齢や管理状況により開花結実が期待できないものを別途記録。

※3：状況や記録から明確に植栽とわかる種。不明なものや逸出したものはいずれの調査でも他の植物と同様に記録している。

日次記録

中里郷土の森には解説員が常駐しているため、調査日以外に見られた野鳥とその他希少種や初記録種などを記録し、直近の調査結果に加えている。

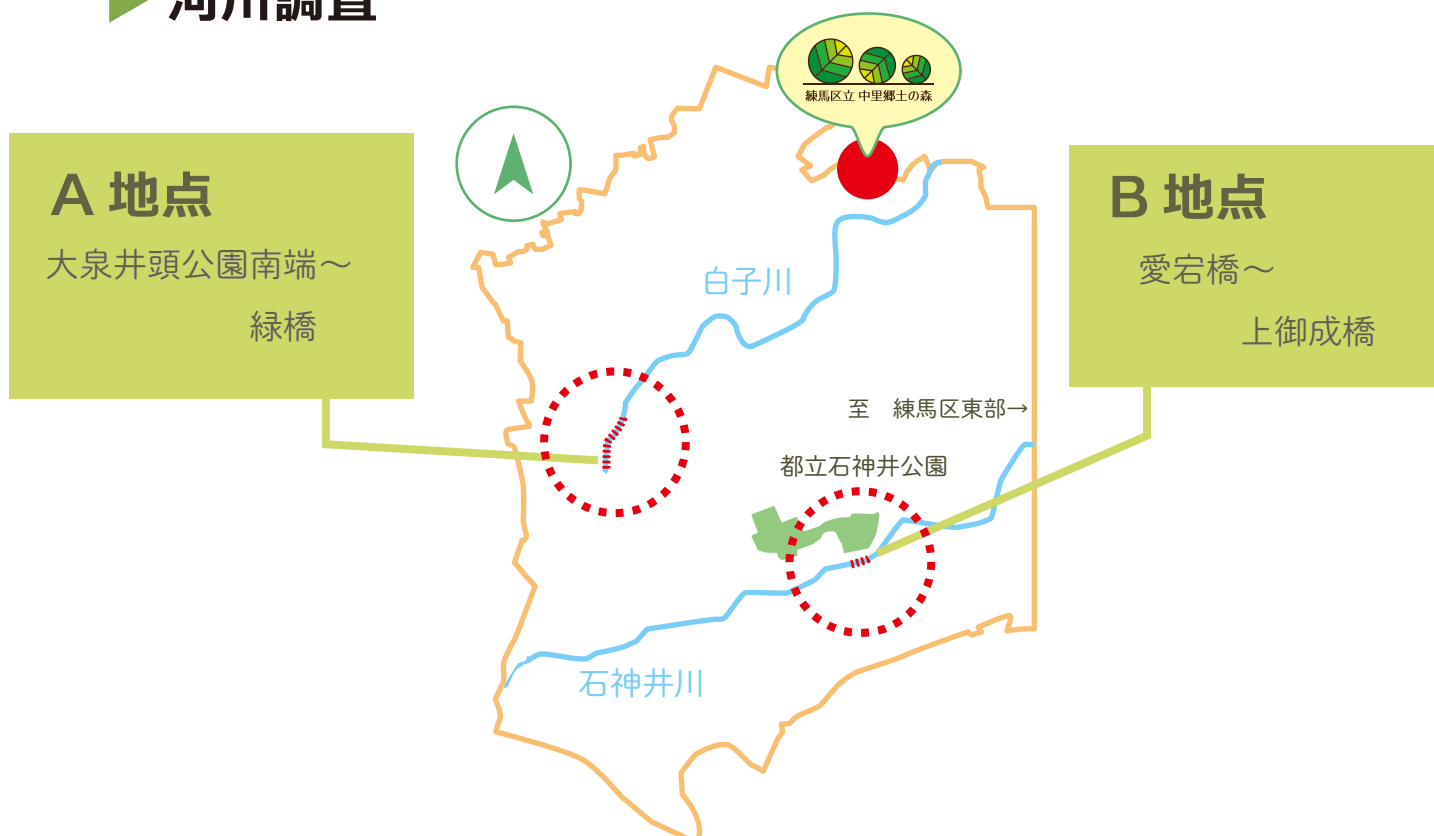


調査範囲

▶ 中里郷土の森とその周辺緑地



▶ 河川調査



RESULT

絶滅危惧種

ENDANGERED SPECIES

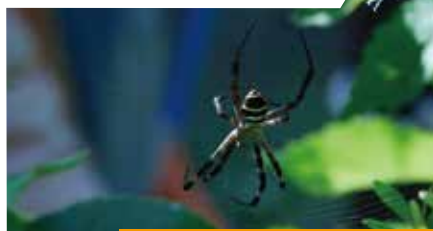
オオアメンボ



絶滅危惧ⅠB類 (EN)

中里郷土の森のビオトープ池に飛来。定着はしていないが、中里郷土の森が周囲の緑地をつなぐ飛び石ビオトープとして機能していると思われる。

コガネグモ



絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

草地を好むクモ。中里郷土の森のススキ生育地付近で初めて確認された。1個体のため定着の可能性は低いですが、今後とも飛来の可能性がある。

アオガヤツリ



準絶滅危惧 (NT)

河川調査時に白子川で初確認。人が頻繁に立ち入る可能性のある裸地でみられたため、人為的な攪乱で埋土種子が芽生えたものと思われる。

ランクは「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）2020年版」区部のものを参照。

今回見られた絶滅危惧種

今回の調査では、都区部で絶滅危惧種とされている種を 50種（NT含む） 確認した。

なお、植栽や明らかな逸出等は含めていない。

オオアメンボやコガネグモ、ヤマシギなど、今回または前回初記録の種が多く見られた。ヤマシギなどはたまたま気付かれていなかった可能性もあるが、コガネグモやオオアメンボなどは比較的目につきやすい環境に存在するため、他の緑地などから新たに飛来した可能性がある。

また、年々昆虫類などの数が全体的に減少している体感があるため、絶滅危惧種のランクだけにとらわれずに生物相の変化を注視していくことが重要と思われる。

種名	みられた緑地	都区部 RDB
ゴマギ	中里郷土の森	EX
カッコウ	中里郷土の森	CR
クサシギ	白子川	CR
ヤマブキソウ	清水山の森	CR
ヒガシニホントカゲ	ほぼ全域	CR+EN
ニホンカナヘビ	ほぼ全域	CR+EN
アオゲラ	土支田八幡宮など	EN
オオタカ	中里郷土の森など	EN
ツミ	中里郷土の森など	EN
アカアシオオアオカミキリ	稻荷山憩いの森	EN
オオアメンボ	白子川	EN
ヤマシギ	中里郷土の森	VU
コシロシタバ	稻荷山憩いの森	VU
ホソミオツネントンボ	中里郷土の森	VU
コガネグモ	中里郷土の森	VU

今回確認された絶滅危惧種の一部（詳細は別紙参照）

その他特徴的な種

ハマダラナガスネカ



中里郷土の森で確認。園内にはヒトスジシマカが多く発生するが、本種はヒトを吸血しないため、今まで存在に気付かれていなかったものと思われる。

ホウドタヌキ



疥癬にかかっていると思われる1個体が、中里郷土の森で確認された。周囲の緑地ではため糞などが確認されているので、そこから移動してきたものと思われる。

カギザケハコベ



もみじ山公園に昨年4月オープンした拡張部で確認。まれな帰化植物。埋土種子からの発芽か、芝や植木の根鉢などに種が混じり、移動してきたと考えられる。

外来種

中里郷土の森と周辺の外来種



近年分布を拡大しているチュウゴクアミガサハゴロモが初めて確認された。年に複数回発生し、その年の秋には当たり前にみられる種類となっていた。昨年初めて確認されたヘリチャハゴロモは確認されなかった。

白子川・石神井川の外来種



白子川では、源流部にミズヒマワリが、中流部にオオカワヂシャ、オランダガラシなどが繁茂している。石神井川では、アクアリウムプランツのハビコリハコベが増加していた。調査対象には含んでいないが、両河川の水中で見られる

コケ植物も、ウィローモスやリシアと呼ばれているものが大半を占めている可能性がある。

特定外来生物

- ・アカボシゴマダラ
- ・アライグマ
- ・オオカワヂシャ

その他生態系被害防止外来種

- ・ハクビシン
- ・ワカケホンセイインコ
- ・トウネズミモチ

…etc.

特定外来生物

- ・オオカワヂシャ
- ・ミズヒマワリ
- ・アメリカザリガニ（条件付）

…etc.

その他生態系被害防止外来種

- ・オランダガラシ（クレソン）
 - ・オオカナダモ（アナカリス）
 - ・ハビコリハコベ（グソッロスティグマ）
 - ・キショウブ
- …etc.

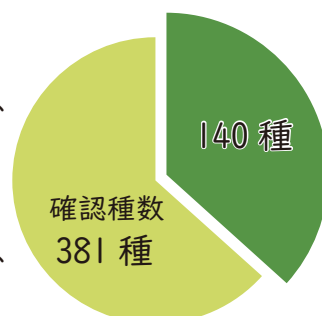
緑地ごとの特性と昨年度からの変化



中里郷土の森

ビオトープ池に飛来したオオアメンボや、ススキ原に発生したコガネグモなど、都区部では希少な生物種が新たに確認された。様々な環境を内包していることから、埼玉県と都区部の生物種を繋ぐ飛び石ビオトープとしての効果が期待される。

この場所のみで確認



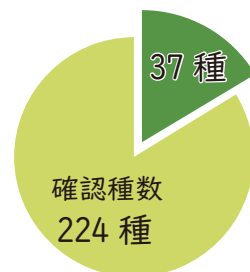
比較のため底生生物調査の結果は除いている。



もみじ山公園

昨年4月に拡張部がオープンした。芝生に園路が通るシンプルな作りだが、埋土種子などからの発芽と考えられるカギザケハコベやムシトリマンテマなどの、ややまれな帰化植物が見られた。一時的な発生と思われるが、今後の植生の変化を注視していきたい。

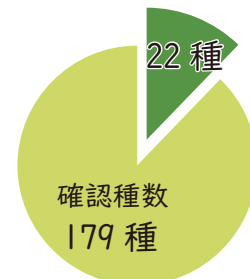
この場所のみで確認



白子川沿い（万年橋～越後山橋）

護岸底面は、侵略的外来種のオオカワヂシャとオランダガラシが優占している。また、昨年確認できなかったクサシギが冬季に確認された。植栽されたサクラ類の腐朽が進んでおり、調査範囲内でも数本伐採されたが、周囲の環境に目立った影響は今のところない。

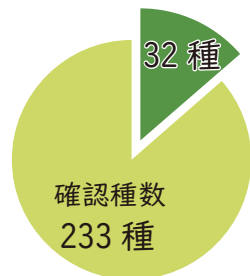
この場所のみで確認



清水山の森

ボランティアにより管理されているため、カタクリをはじめとする希少種の生育は良好に見える。都市部の樹林地などに近年定着している帰化植物のコネズミガヤが少数確認されたため、生育状況を注視していく必要がある。

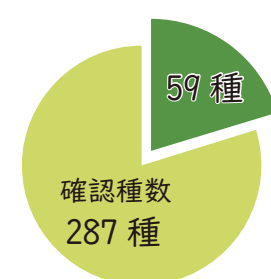
この場所のみで確認



稲荷山憩いの森

例年通り多くの昆虫類が確認されているが、今年は特にノコギリクワガタが多く発生した。近年発生したカシノナガキクイムシの穿入により、樹幹の低い位置に樹液が出るようになったため、樹液に集まる生物種が多く確認されている。

この場所のみで確認

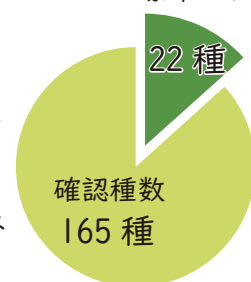




土支田八幡宮

昨年同様、環境や植生の大きな変化はみられない。境内の裸地になっている箇所に、トウキョウヒメハンミョウが飛んでいる様子がよく見られる。また、ジョロウグモが多いため、ジョロウグモの巣に生息するシロカネイソウロウグモなども確認されている。

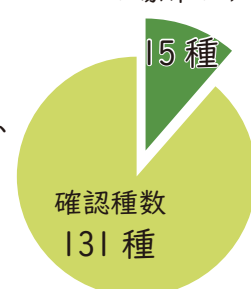
この場所のみで確認



越後山憩いの森

ルリビタキやカワラヒワなど、他の緑地では確認されていないか少ない種類の野鳥がよく確認された。特に、ルリビタキは初記録となる。南向き斜面で気温が高くなりやすいためか、草本植物の花が他の緑地より早く咲く様子がよく見られる。

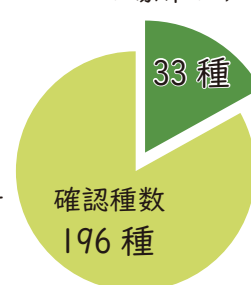
この場所のみで確認



八坂神社

例年通り、ワレモコウやツリガネニンジンなど、調査範囲内ではここで見られない植物が多い。都区部Ⅶのイチリンソウが狭い範囲に数株確認されていたが、3月の調査では葉が確認できなかったため、消滅した可能性がある。

この場所のみで確認



河川調査



白子川

昨年多数確認されたシマヨシノボリは今回確認されなかったため、一時的に発生しただけのものだった可能性がある。狭い範囲に生育していた特定外来生物のオオフサモは、周囲のオランダカイウ等とともに生育範囲をやや広げている。



石神井川

魚類はアブラハヤ一種しか確認されなかった。調査地点の上流と下流に、植生の無い状態が長く続くエリアがあるため、増水して流されると戻るのが困難であることが要因として考えられる。白子川に比べ、アメリカザリガニの個体数も少ない。